

医会 Pick Up 

「こどもの目の日」制定記念式典

乳幼児・学校保健

6月10日は「こどもの目の日」(写真1)

日本眼科啓発会議は、今年から6月10日を「こどもの目の日」として記念日登録しました。これを記念し、本会は5月28日(日)東京都千代田区にあるイイノホールにて「こどもの目の日」制定記念式典を行いました。今年4月にこども家庭庁が創設されるタイミングで子どもの目に関わる記念日を制定し、広く社会に子どもの目の発達や健康に関心を持っていただくきっかけになればという願いがありました。まずこの記念日制定の式典を行うにあたって、あらゆる方面で子ども達に関わる方々に知っていただく機会になるよう、学校保健に関わる医師会、小児科、耳鼻科、視能訓練士、文科省や厚労省など省庁、教育委員会など多岐にわたる関係者の方々にご案内しました。そして当日は211名の方に

ご出席いただきました(写真2)。

式典の司会進行はフリーアナウンサー(元フジテレビアナウンサー)の笠井信輔氏、弦楽四重奏(この日のために結成されたスペシャル・カルテット・フォア・チルドレンズ・アイ・デイ)の生演奏で始まりました。笠井アナウンサーは皆様おなじみの親しみやすい笑顔と軽妙な語り口で、生演奏もありとても心地よい雰囲気の式典のスタートでした(写真3)。

まず開会の辞を白根会長が述べられました(写真4)。本会では人生100年時代に切れ目なく国民の目を守る様々な活動の中で、「6歳までに弱視を治



写真1 「こどもの目の日」ポスター



写真2 会場入り口風景



写真3 笠井アナウンサー



写真4 白根会長挨拶



写真5 岸田首相のビデオメッセージ



写真6 記念日登録証



写真7 日本記念日協会加瀬様と杉山先生

療して視力1.0を獲得」し、「6歳からも目を大切に
して視力1.0を維持」していくという願いを込めて
6月10日を「こどもの目の日」に制定し、子ども
の目を守る活動を進めていくと話されました。

次にご来賓挨拶となりました。日頃から眼科医療
の活動をご支援いただいている衆議院議員井上信治
先生、参議院議員羽生田俊先生、参議院議員自見は
なこ先生にご公務でお忙しい中ご出席いただきました。
また、岸田文雄首相からはG7広島サミット開
催前という大変お忙しい中直々にビデオメッセ
ージをいただきました(写真5)。このビデオメッセ
ージは式典終了後首相官邸ホームページにも掲載され
たことは大変光栄であるとともに、国の政策として
も非常に関心の高い話題であることがわかります。

岸田首相のビデオメッセージに続き、松本吉郎日
本医師会会長からもビデオメッセージをいただきま
した。また、田村憲久衆議院議員、国光あやの衆議
院議員からは祝電を頂戴しました。



写真8 左より日本学校保健会弓倉先生、白根会長、杉山先生、井上衆議院議員、羽生田参議院議員、自見参議院議員

引き続き、一般社団法人日本記念日協会から記念
日登録証(写真6)が授与されました。日本眼科啓発
会議を代表して日本眼科学会理事杉山和久先生(金
沢大学教授)に授与していただきました(写真7,8)。



写真9 イラストレーターの藤本様とカルテット

今回「こどもの目の日」のポスターを作成していただいたイラストレーターの藤本知佳子様にもご出席いただきました。可愛らしいこどものイラストがとても印象的で、藤本様には本会で発行した「3歳児健診における視覚検査マニュアル」「園医のための眼科健診マニュアル」など多くのイラストも担当していただきました(写真9)。

休憩の後、第二部記念講演となりました。

講演1は座長に白根雅子会長、講師は参議院議員で小児科専門医である自見はなこ先生に「こどものWell-Beingと目の健康～こども家庭庁の施策を中心に～」というタイトルでご講演いただきました。こどもを取り巻く問題に向き合い、常にこどもの視点に立ってこども政策に強力かつ専一に取り組む独立した行政組織としてこども家庭庁が創設されたこと、こども基本法の概要を話されました。こども基本法の中で、こども施策の策定にあたってはこどもや子育て当事者の意見が反映されなければならない、と定められていることは注目すべき点であると思います。また、海外での「外あそび推奨」の事例にも触れ、こどもの幸福(Well-being)に関わる身体、心、社会的に大きく関連していて今後こども家庭庁においても検討が進む予定とのことでした。これは近視進行予防で「外あそび」を推奨する眼科との連携も今後関連すると思われました(写真10, 11)。

講演2は座長に本会乳幼児・学校保健担当の柏井真理子常任理事、講師に日本弱視斜視学会理事長の佐藤美保先生(浜松医科大学病院教授)に「こども



写真10 座長(白根会長)



写真11 講演(自見先生)

たちの健全な視力発達のために」というタイトルでご講演いただきました。佐藤先生はみなさまご存知のようにいつも大変わかりやすく斜視などの疾患や治療をお話しされます。今回はこどもたちの健全な視力発達のために知っておきたいこととして、小児に特有な目の異常、早期発見・早期治療の重要性、デジタル化にどう対応するかということについてお話しされました。特に会場には眼科関係者以外の方もいらっしゃったので、弱視や目の発達、視力、屈折など基本的なことに続き、目と脳が成長する視覚感受性期間にも触れられました。またデジタル化に伴う近視、ドライアイ、内斜視を具体的な写真などを交えながら講演されました。よく見える目で人生をスタート、それは人生100年時代の生涯にわたる目の健康のスタートです、と締めくくられました(写真12, 13)。

講師のお二人には、この式典に先立って行われた第24回日本眼科記者懇談会(5月18日)でもご講演いただきました。記者懇談会講演資料は日本眼科医会ホームページ <https://www.gankaikai.or.jp/>



写真12 座長(柏井常任理事)



写真13 講演(佐藤先生)



写真14 小沢副会長



写真15 関係者集合

news/index.htmlのお知らせ一覧2023年5月18日からご覧いただけます。

笠井アナウンサーが要所要所に入れるコメントによって、この「こどもの目の日」を制定した意義がより深く理解される気がしました。会もスムーズに進めていただき、時間通りに最後の閉会の辞となりました。

閉会の辞は小沢忠彦副会長が述べられました。その中で、「子どもの身長もずっと伸びるわけではなく、高校生ぐらいでストップしてしまう。視機能の発達にも最適な時期があり、まず3歳ぐらいまでにぐんと伸び、その後6歳から8歳ぐらいまででス

トップしてしまう」というフレーズがあり、一般の方に向けて「6歳で視力1.0」が大切なのか説明する際に便利なフレーズだなと思いました(写真14)。

終始和やかな雰囲気が無事盛会のうちに終わることができました。今回ご出席いただけなかったみなさまに少しでも式典の様子が伝わるよう記録写真を多く掲載いたしました。「こどもの目の日」は今始まったばかりです。これから、一般社会に広く浸透し、親御さんはもとより社会全体で子ども達の目の健康を育めるよう願っています(写真15)。

(文責 近藤 永子)